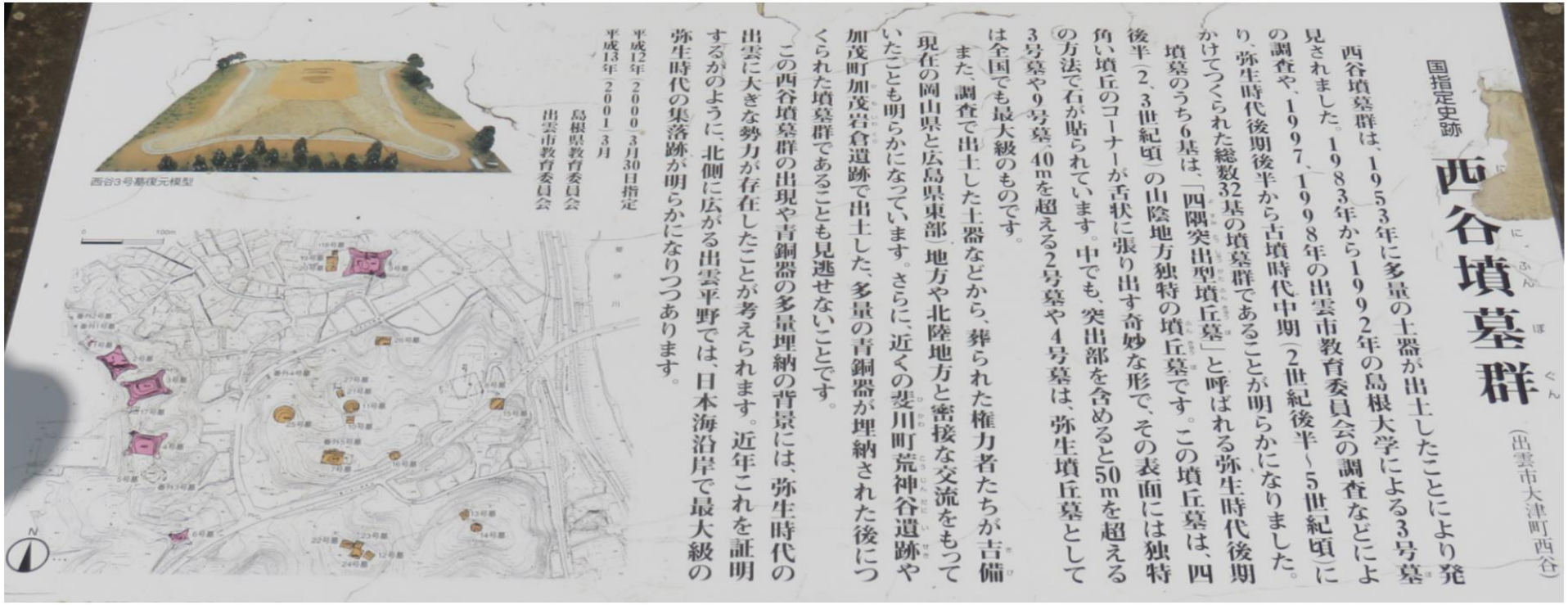
西谷墳墓群史跡公園（出雲市大津町）

ここは西谷墳墓群史跡公園の入口

西谷からロマン飛行
絵　出雲市立大津小学校（平成12年度 6年生）

西谷墳墓群は弥生時代後半から古墳時代中期（2世紀後半～5世紀頃）にかけて築造された総数32基の古墳群/墳墓の内、6基は「四隅突出型墳丘墓」と呼ばれる弥生時代後期後半（2、3世紀頃）の山陰地方独特の墳丘墓と云う



国指定史跡

西谷墳墓群

（出雲市大津町西谷）

西谷墳墓群は、1953年に多量の土器が出土したことにより発見されました。1983年から1992年の島根大学による3号墓の調査や、1997、1998年の出雲市教育委員会の調査などにより、弥生時代後期後半から古墳時代中期（2世紀後半～5世紀頃）にかけてつくられた総数32基の墳墓群であることが明らかになりました。

墳墓のうち6基は、「四隅突出型墳丘墓」と呼ばれる弥生時代後期後半（2、3世紀頃）の山陰地方独特の墳丘墓です。この墳丘墓は、四角い墳丘のコーナーが舌状に張り出す奇妙な形で、その表面には独特の方法で石が貼られています。中でも、突出部を含めると50mを超える3号墓や9号墓、40mを超える2号墓や4号墓は、弥生墳丘墓として全国でも最大級のものです。

また、調査で出土した土器などから、葬られた権力者たちが吉備（現在の岡山県と広島県東部）地方や北陸地方と密接な交流をもっていたことも明らかになっています。さらに、近くの斐川町荒神谷遺跡や加茂町加茂岩倉遺跡で出土した、多量の青銅器が埋納された後につくられた墳墓群であることも見逃せないことです。

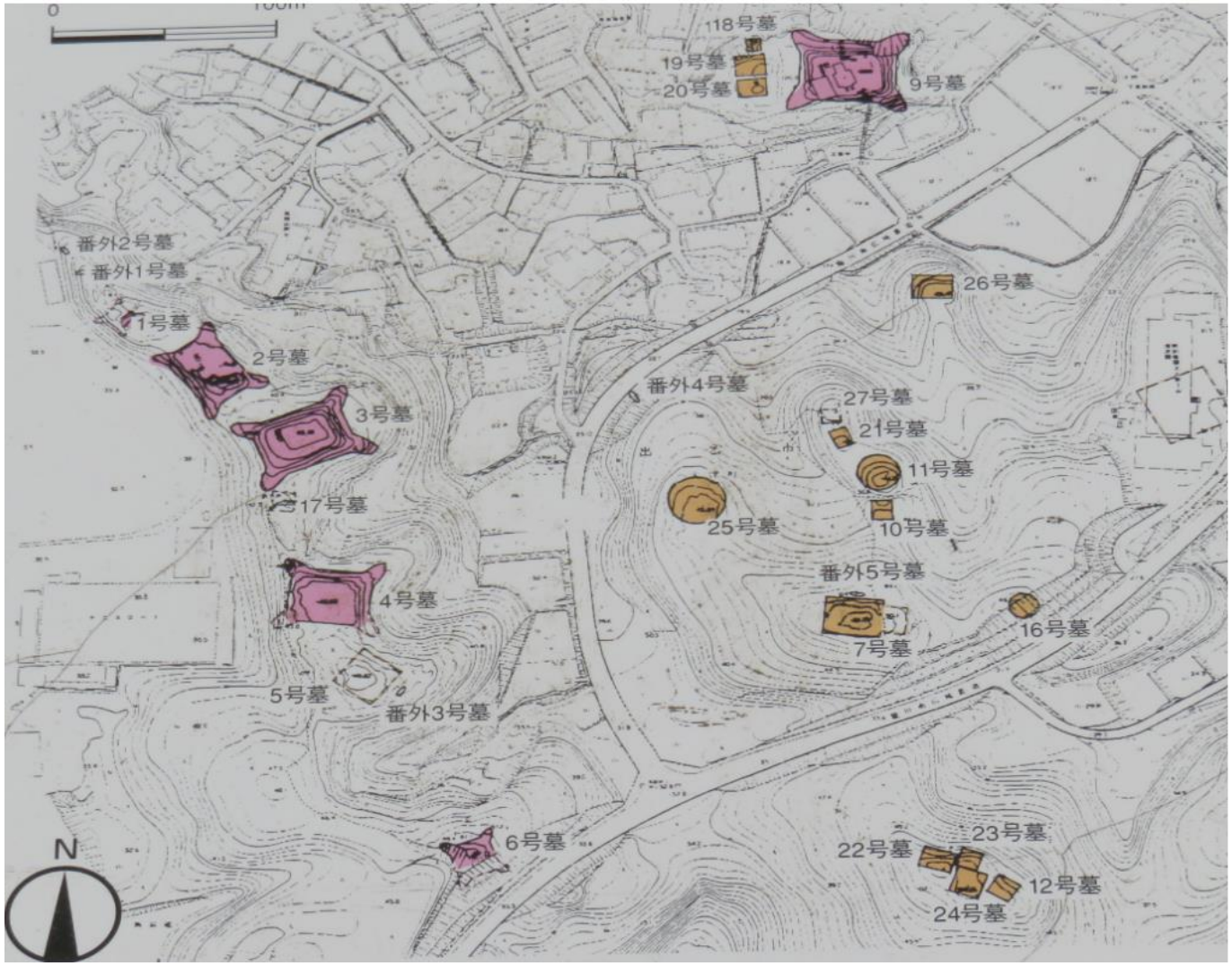
この西谷墳墓群の出現や青銅器の多量埋納の背景には、弥生時代の出雲に大きな勢力が存在したことが考えられます。近年これを証明するかのように、北側に広がる出雲平野では、日本海沿岸で最大級の弥生時代の集落跡が明らかになりつつあります。

平成12年（2000）3月30日指定
平成13年（2001）3月

島根県教育委員会
出雲市教育委員会

西谷3号墓復元模型

2世紀後半から3世紀頃にかけて墳墓が築造され、古墳時代まで続くと云う/西谷墳墓群で四隅突出型墳丘墓の中の特に巨大な規模を持つ2号墓、3号墓、4号墓、9号墓は弥生時代に出雲を支配した王たちの墓と考えられているらしい



山陰地方を中心に発達した四隅突出型墳丘墓6基などからなる弥生時代後期の墳墓群/斐伊川に面した丘陵地に位置し、南北方向の尾根に並ぶ1号墓から6号墓と、東北に約300m離れた小丘陵上にある9号墓などからなる/4→5→3→2→1→6号墓と進んでみよう

4号墓へはここから登っていく

正面は4号墓で、手前の部分は突出部/前方右手にも、突出部が見えている

手前がその右手の突出部/右手に回り込んでみよう

説明板がある

弥生時代後期後半（2世紀末）の築造と云う

4号墓の墳丘を左手に、更に進む

これは5号墓/説明板がある

方墳のようだ

西谷（にしだに）５号墓

４号墓の南東に隣接（りんせつ）してつくられた墳丘墓（ふんきゅうぼ）です。墳丘は過去に改変されていますが、長辺22ｍ前後、短辺約17ｍ、高さ２ｍ前後の方形または楕円形であったと推定されます。なお、築造時期（ちくぞうじき）については不明です。

また５号墓北西の平坦部（へいたんぶ）には土壙（どこう）１基、南東には番外（ばんがい）３号墓がつくられています。

■周辺地形図

これは5号墓の墳頂に登ったところ

そこから4号墓方向を見たところ/向こうの4号墓の手前の平坦部に土壙が1基あったらしい

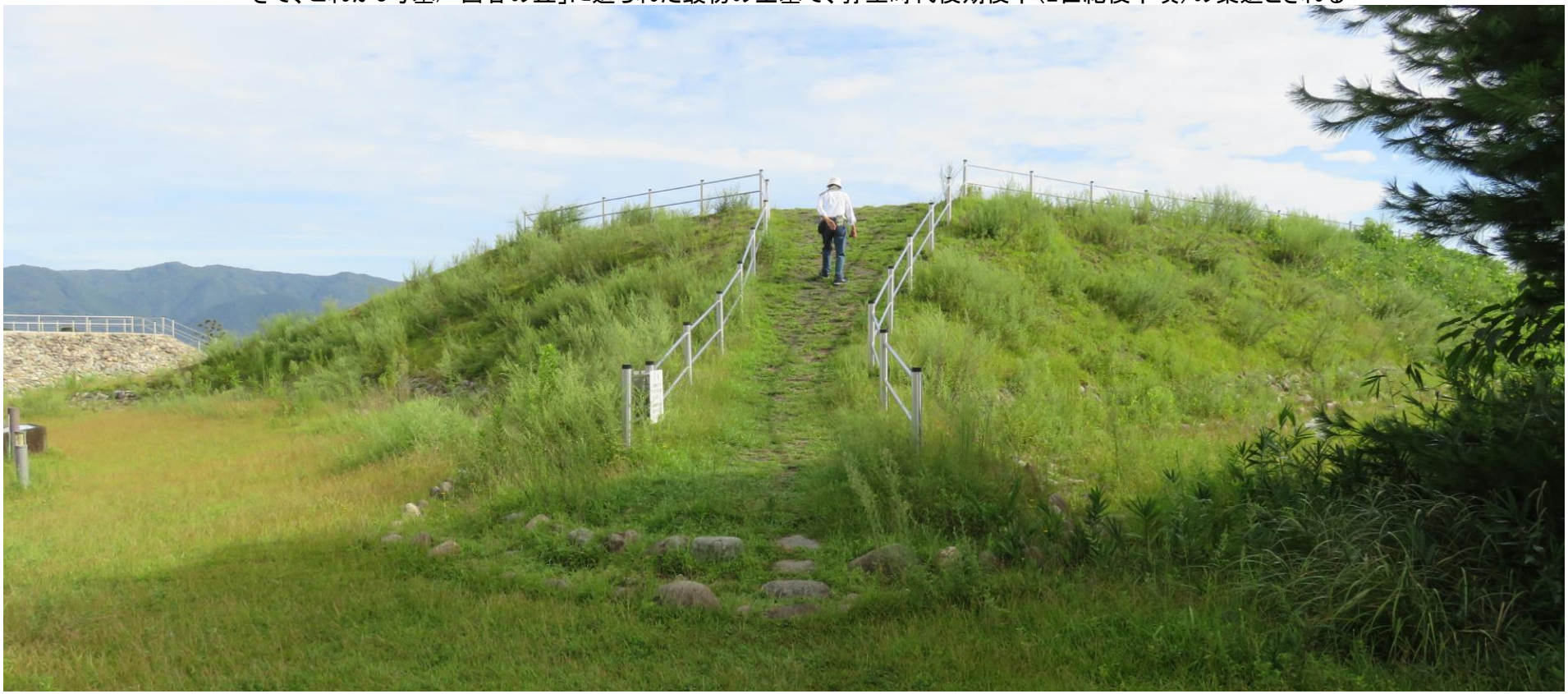
手前の平坦部の向こうが4号墓の墳頂　（クリックしてビデオを見る）

さて、戻りながら3号墓方向に進む

3号墓の少し手前の右手に17号墓がある/説明板が見える

弥生時代末期（3世紀前半頃）の円墳もしくは方墳（墳丘墓）ということか・・・

さて、これが3号墓/「西谷の丘」に造られた最初の王墓で、弥生時代後期後半（2世紀後半頃）の築造とされる



そこで左手を見たところ/前方に2号墓が見える

同じく右手を見たところ/この更に右手に17号墓がある

標柱と説明板

西谷（にしだに）3号墓

西谷３号墓は、およそ西暦200年頃に造られた「四隅突出型墳丘墓」という弥生時代の山陰独特な形のお墓です。突出部を含めると南北40ｍ以上、東西約50ｍの巨大な墳墓であったと推定され、当時の出雲の王墓と考えられています。

第１主体副葬品（写真提供：島根大学考古学研究室）

墳丘復元模型（写真提供：島根県教育委員会）

第４主体供献土器（写真提供：島根県教育委員会）

埋納された宝物

副葬品は、第１主体から200個以上の玉類（アクセサリー）が、第４主体からは鉄剣１点と20個の管玉からなる首飾り１点が出土しています。第４主体は当時の王、第１主体はその妃が埋葬されていたのではないでしょうか。

第４主体検出状況（写真提供：島根大学考古学研究室）

第４主体墓上祭祀復元模型（写真提供：島根県教育委員会）

地域間交流

墓上では主体部の上から大量の土器が出土しています。地元の土器の他、吉備の特殊土器や北陸のものに似た土器も出土しており、亡き王のために他地域からも参列者が来ていたものと考えられます。

墓上の祭祀

墳頂部では少なくとも大小８つの墓穴が確認されていますが、その内の第４主体では墓上祭祀の舞台装置が発見されました。それを元に当時の儀式の様子が復元されています。

出雲市教育委員会

墳丘の斜面には貼石、墳端には立石・敷石が並べてあり、墳端の配石構造は2段になっていると云う

この突出部から墳頂に登ってみよう

墳頂には第1主体（左手前）と第4主体（右奥）の位置が表示されている

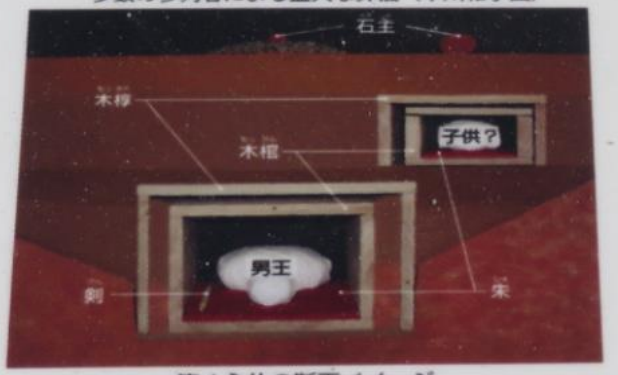
西谷３号墓の埋葬施設

西谷３号墓には大小８つ以上の墓穴があります。なかでも，墳丘の上に表示している「第４主体」と「第１主体」と名付けられた墓穴は，長辺が約６ｍもある巨大なものでした。これらの墓穴には，二重の木棺が納められており，その底には真っ赤な朱が敷きつめられていました。たいへん手厚い埋葬であったことがわかります。

棺の中からは，第４主体で鉄剣と胸飾りが，第１主体で２００個以上の玉類（アクセサリー）が発見されています。前者には当時の男王が，後者には女王が葬られていたのではないでしょうか。

また，第４主体では４本柱の跡も発見されました。これら発掘調査の成果から当時の葬儀のようすが明らかになってきました。

多数の参列者による盛大な葬儀（早川和子画）



第４主体の断面イメージ

出土品は，出雲弥生の森博物館で展示中

これは第1主体の墓穴位置

200個以上の玉類が発見されたと云う

こちらは第4主体の墓穴位置/祭祀を行っていたであろう施設の4本柱の跡が発見されたらしい/墳頂で祭祀が行われていたということらしい

鉄剣と胸飾りが発見されたと云う

墳頂からは隣の2号墓（3号墓の次の代の王墓と云う）が見える　（クリックしてビデオを見る）

墳頂を突出部から下りる/こうしてみると、突出部は墳頂への上り下りのために造ったのかなあ？・・・確かに便利！

さて、前方は2号墓

右手には3号墓の突出部の側面

これは2号墓の突出部

右手に回り込む　　（クリックしてビデオを見る）

標柱と説明板

3号墓の次の代の王墓として弥生時代後期後半(2世紀後半頃)に築造されたと云う

突出部を見たところ/右手には復元に当たって墳丘内部に設けられた展示室への入口が見える

ここから墳丘を登れるように手摺も設けられている

左手を見たところ

右手を見たところ

ここが墳頂　　（クリックしてビデオを見る）

これは墳頂から3号墓を見たところ

さて、展示施設に入ってみよう

説明板が立っている

よみがえった四隅突出型墳丘墓
西谷2号墓の復元

この四隅突出型墳丘墓は，発掘調査の成果に基づいて，わずかに残っていた墳丘を大切に保護しながら，当時の姿に復元したものです。

機械がなかった約1,800年前の弥生時代に，この巨大な王墓を築き上げた人々の苦労は計り知れません。

復元の過程

① 発掘調査
形や規模が明らかとなりました。

② 整備前
ただの小山にしか見えませんでした。

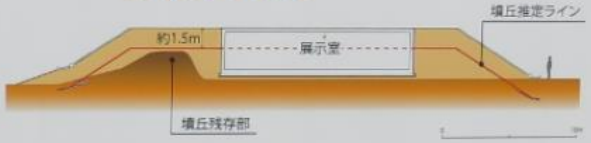
③ 建築工事
展示室となるコンクリートの部屋を作ります。

④ 盛土工事
墳丘を元の形に復元します。
展示室もかくれました。

⑤ 貼り石作業
弥生時代の姿そのままに石を貼り付けます。

⑥ 展示工事
展示室に色々な仕かけをこしらえて，完成！

墳丘の保護



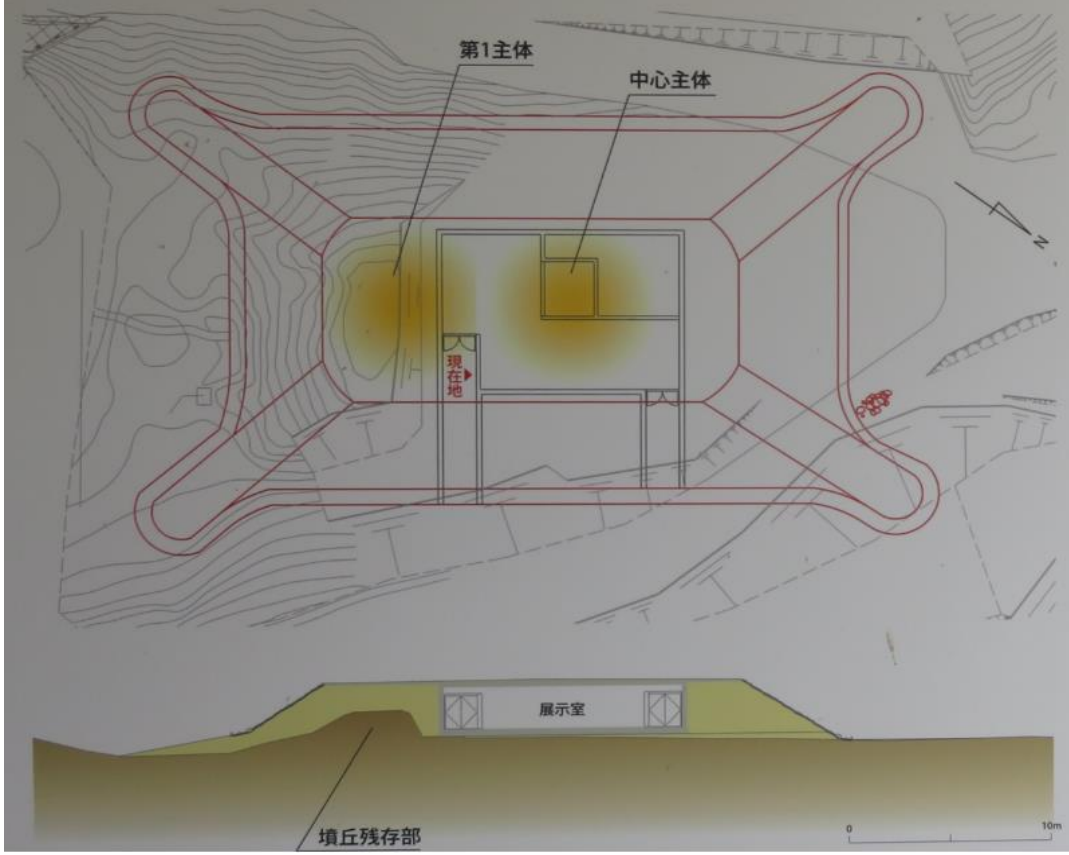
2号墓は，墳丘が削り取られた場所に展示室を設け，残丘とともに全体を盛土で覆って墳丘の保護と復元を行いました。そのため，整備後の2号墓は，全体が本来の高さより約1.5m高くなっています。

復元2号墓のみどころ

中へと進む

よみがえった西谷2号墓

よみがえった西谷2号墓



整備前の2号墓は，墳丘のほとんどが削（けず）り取られていました。今回の整備では，わずかに残った墳丘を土で覆（おお）って保護し，発掘調査の成果に基づいて石も貼（は）り付けました。こうして，2号墓の壮大な姿がよみがえりました。

さらに，内部に展示室を設けました。発掘調査で見つかった2つの埋葬（まいそう）施設の位置には，土層を再現したパネルや出雲王の埋葬状態の復元模型を，実際の大きさで展示しています。

1988年当時の2号墓

写真提供：島根大学考古学研究室

残っていた墓穴の痕跡

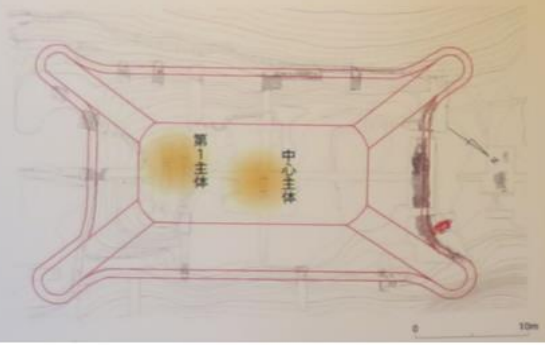
2号墓の発掘調査では，わずかに残っていた墳丘から墓穴の痕跡が発見されました。2号墓で最初に見つかった墓穴であることから「第1主体」と名付けられています。第1主体は墳丘の南端にありますが，棺には当時としては大変貴重な朱が敷きつめられていたことが分かっています。

左の土層パネルの奥には，本物の土層が今でもそのままの状態で保存されています。

残丘のがけ面に残された第1主体の断面

断面を土のうと砂で保護する作業

2号墓復元図



2号墓第1主体断面図

白線は木棺の推定位置を示す
実際の土層面は土層パネルの2.5m奥で，1m低い位置にある

2号墓の中心に眠る王

2号墓の中心付近で真っ赤な朱とガラス腕輪が発見されました。このことから，ここには最も重要な埋葬施設，すなわち「中心主体」があったと考えられます。

しかし，墓穴は完全に壊されていたので，その構造を知ることはできません。

そこで，右側の展示では西谷3号墓第1主体の発掘状況を再現しました。ボタンを押すと，2号墓のガラス腕輪を装着した，埋葬当時の出雲王の姿が浮かび上がります。

発掘された3号墓第1主体をもとに復元
腕輪は2号墓からの出土品

これが3号墓第1主体の様子

こんなパネルも・・・

西谷２号墓　内部解説パネル
第35回島根広告賞　銀賞受賞！
優れた広告作品を表彰する「第３５回島根広告賞」の審査会が平成２３年１月２７日に開催され、「西谷墳墓群史跡公園　西谷２号墓　内部解説パネル（出雲市、エムシー・スクエア・空間文化開発機構・丹青社・計画設計工房）」が、サイン・ディスプレイ部門で見事、「銀賞」に輝きました！
ぜひ、現地の２号墓の中でご覧ください。

第4主体の調査風景

第1主体の玉類発掘

第1主体の調査風景

現地説明会の様子

第4主体の墓上施設の跡

発掘で現れた墳丘南西部の様子

写真提供：島根大学考古学研究室

解き明かされた王墓

西谷3号墓の調査

西谷3号墓は1983年から1992年にかけて，島根大学を中心とする調査団によって発掘調査が断続的に行われました。

この調査によって，墓上の祭祀（さいし）の様子や突出部の構造など3号墓に秘（ひ）められていた，きわめて重要な事実が次々に明らかになりました。

こうして，その後の四隅突出型墳丘墓の調査・研究の基礎が作られました。

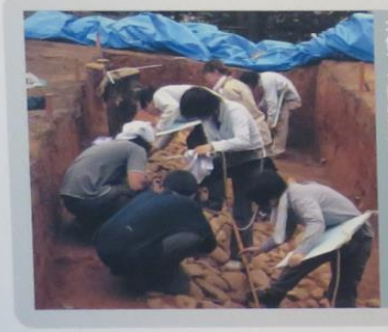
3号墓第4主体の祭祀イメージ　早川和子画

第1主体の調査の様子

北側から見た発掘調査中の2号墓

発掘調査前の2号墓

写真提供：島根大学考古学研究室



北側すそ部の実測

発掘で現れた北側すそ部の様子

調査中の2号墓全景

引き継がれた王の権威

西谷2号墓の調査

西谷2号墓は当初，それほど大きな墓とは考えられていませんでした。しかし，2002年から2005年にかけて行われた島根大学と出雲市の発掘調査によって，突出部を含めると約50mの巨大な墳墓であることが明らかになりました。

墳丘の大きさは，出土した朱（しゅ）やガラス腕輪（うでわ）とともに王の権威を象徴します。このことから，3号墓に眠（ねむ）る初代出雲王の権威は，2号墓に葬（ほうむ）られた王に引き継（つ）がれたと考えられます。

空から見た調査時の2号墓

（クリックしてビデオを見る）

「西谷の丘」の歴史

時代	西暦	できごと
弥生時代	200年ごろ	大型の四隅突出型墳丘墓（以下、「よすみ」という）が次々と造られる。 （3号墓→2号墓→4号墓）
	250年ごろ	9号墓が造られる。
古墳時代	300年ごろ ～500年ごろ	円墳や方墳が築かれる。
	600年ごろ～	横穴墓への埋葬が行われる。
奈良時代		古代山陰道が「西谷の丘」の近くに整備される。
	750年ごろ～	周辺で仏教がさかんに信仰される。
平安～安土桃山時代	800年ごろ～	「西谷の丘」の墓山としての利用が終わる。
江戸時代	1700年ごろ～	「大津瓦」の生産が始まる。 （周辺で粘土が採掘される）
	～1730年ごろ	観音堂があった。 （「観音坂」が塩冶に抜ける里道として利用される）
明治・大正時代	1872年～	「東原焼」（後の「黄祥山焼」）の操業が始まる。 （「西谷の丘」の粘土が採掘される）
昭和時代	1945年ごろ～	戦後の食料難で畑として利用され、その後雑木林となる。
	1953年	地元の中学生により土器が採集される。
	1956年	採集土器が「下東原西谷丘陵出土土器」として報告される。
	1972年	出雲市教育委員会が1号墓を調査し「よすみ」と判明する。
	～1974年	県立出雲商業高校が建設される。 （「一本松の丘」を崩し、谷を埋めて用地が造成される）
	1980年	出雲考古学研究会により西谷墳墓群が「よすみ」6基を含む大墳墓群であることが指摘される。
	1983年 ～1992年	島根大学による断続的な発掘調査が行われる。 （3号墓を主とした調査が行われる）
平成時代	1997年 ～1999年	出雲市による分布・測量調査や史跡指定予備調査が行われる。
	2000年	西谷墳墓群が国史跡に指定される。
	2002年～	出雲市による2号墓の発掘調査が行われる。 （2004年は島根大学も調査に参加する）
	2005年	「よすみ」の保存整備が始まる。
	2006年	2号墓の東隣面で横穴墓群が発見され、緊急調査が行われる。
	2007年	博物館用地で横穴墓群が発見され、現地保存される。
	2010年	西谷墳墓群史跡公園・出雲弥生の森の整備が完了し、博物館が開館する。

「よすみ」が造られたころの「西谷の丘」

西谷横穴墓群第2支群

観音堂の参道（？）

1947年の「西谷の丘」周辺

1979年の「西谷の丘」周辺

2009年の「西谷の丘」周辺

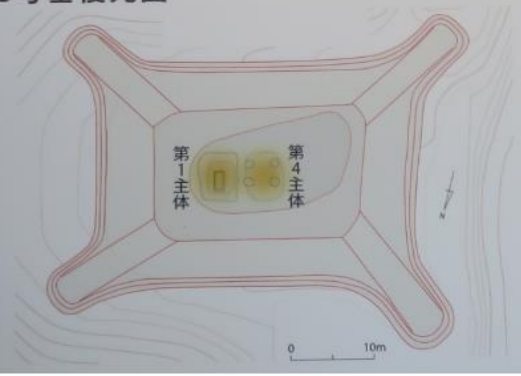
出雲弥生の森博物館

土層が物語る埋葬構造

左の土層パネルは，西谷3号墓第1主体の断面を復元したものです。質の異なる土が複雑に重なりあっている様子が見てとれます。

こうした土層を丹念に観察し研究することで，出雲王の埋葬施設がどのような構造だったのかが分かります。木棺を木椁（槨）で覆った，二重構造であったことが判明し，手厚い埋葬を行っていたことが明らかになりました。

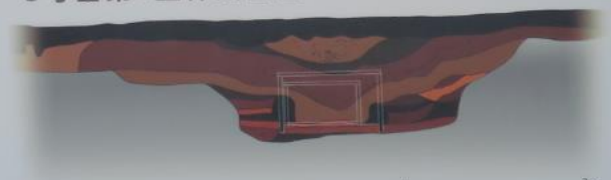
3号墓復元図



3号墓第1主体実測図

出典：『西谷墳墓群の調査（Ⅰ）』

3号墓第1主体断面図



白線は木棺と木椁の推定位置を示す

0　2m

さて、これは1号墓の標柱

これが1号墓/説明板がある

墳端の配石構造は1段になっていると云う/弥生時代後期後半（2世紀後半頃）の築造らしい

反対側から見たところ

さて、ここは2号墳の東側斜面で、ここで西谷横穴墓群第2支群が発見されたと云う/説明板が立っている

西谷横穴墓群 第2支群　整備途中での新発見！

西谷横穴墓群第2支群は，西谷2号墓が築かれた尾根の東側斜面で見つかりました。

発掘調査では，約1,400年前に造られた横穴墓が10穴発見されました。その中には，遺体を安置するために土器の破片を敷き詰めた横穴墓や，鉄刀や土器が副葬された横穴墓もありました。

調査後，第2支群は埋め戻し，擁護壁で覆って地下に保存しました。

発掘調査時の第2支群

土器の破片を床に敷いた横穴墓

第2支群から出土した土器

第2支群の位置

さて、この右手を行くと6号墓があるようだ

この先らしい

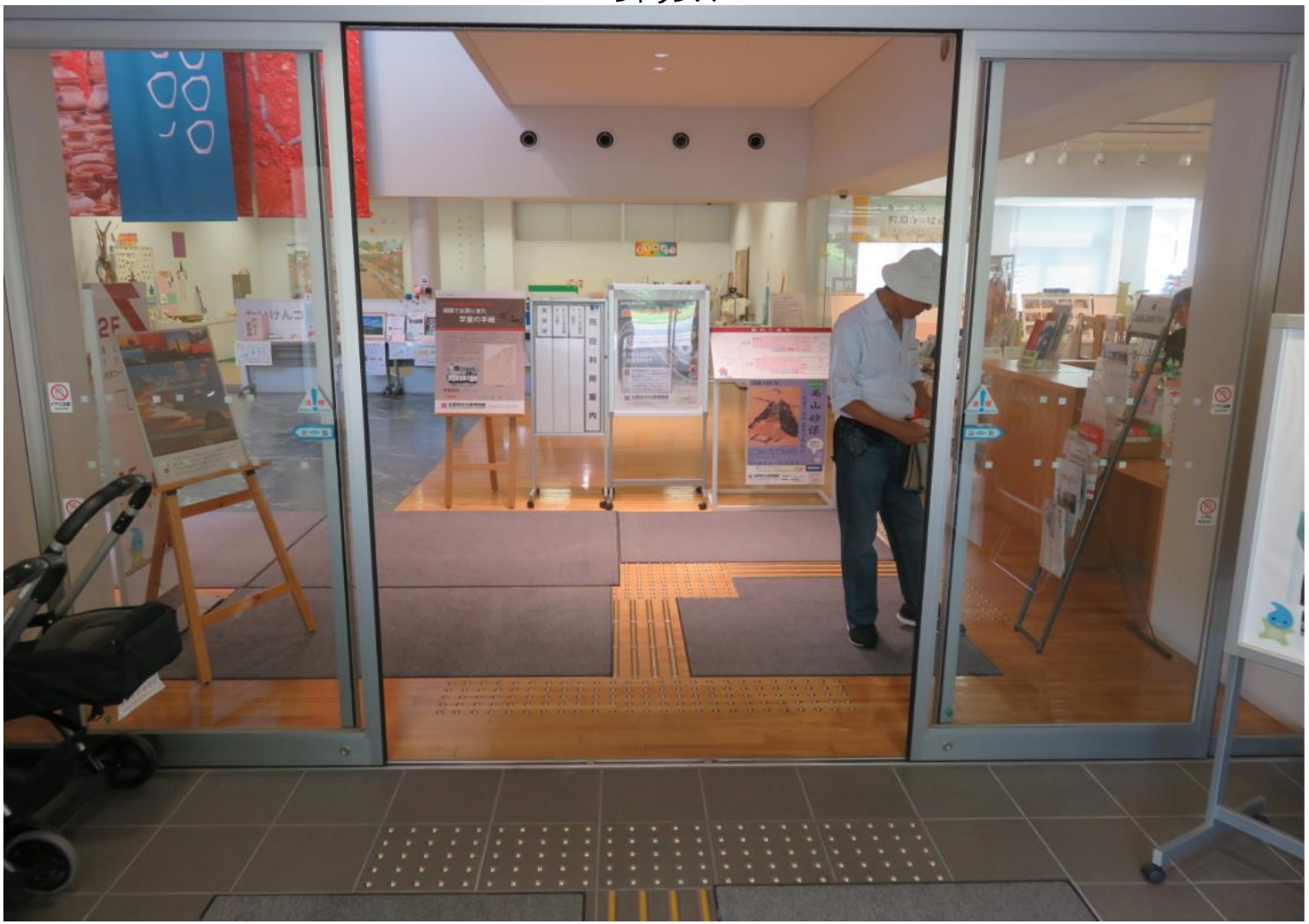
説明板があった

弥生時代終末期（3世紀前半頃）築造の四隅突出型墳丘墓と云う

これがその墳丘

さて、道路の反対側にある「出雲弥生の森博物館」を見学しよう

エントランス



3号墓のジオラマ/祭祀の様子が見てとれる　　（クリックしてビデオを見る）

最後の出雲王

出雲のクニが最盛期を迎えたころ，「西谷の丘」に9号墓が造られました。大きさはおよそ60m×55m，高さは5mもある日本最大の「よすみ」です。その周囲には3列の石列がめぐらされていました。

ところが，9号墓が造られてからまもなく，出雲の地では「よすみ」がこつぜんと姿を消してしまいます。出雲王の治めたクニにいったい何があったのか，その答えは今も謎に包まれています。

西谷9号墓の築造（想像図）

※突出部以外の縁まわりには3列の石列があります

博物館2階から見た墳墓群の所在する「西谷の丘」を見たところ/前方は6号墓辺りか

その右手/4号墓辺りか

更にその右手/2号墓辺りか

その更に右手の道路の反対側を見ると、西谷横穴墓群第3支群が見える（クリックしてビデオを見る）

近づいて見たところ/説明板が立っている

7世紀前半～中頃の築造と云う

にしだによこあなぼぐん　だいさんしぐん

西谷横穴墓群 第3支群

横穴墓は、山の斜面に横から穴を掘って作った墓のことです。

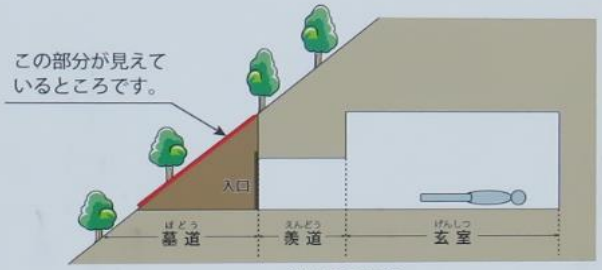
この横穴墓群は、博物館建設に先立つ発掘調査で発見されたものですが、そのまま埋めて保存してあります。

南北約30m、東西約15mの範囲から、10基の横穴墓が見つかりました。

出土品の須恵器から古墳時代の終わり頃（7世紀前半～中頃）に造られたと考えられます。

斜面に見える細長い楕円形が、一つ一つの横穴墓の場所になります。今見えているのは、墓に通じる道（墓道）を埋めた部分です。入口は板や石でふさいであり、通路（羨道）をとおって人が埋葬された部屋（玄室）にいたります。

第1・2支群は、史跡公園側の斜面で発見されています。

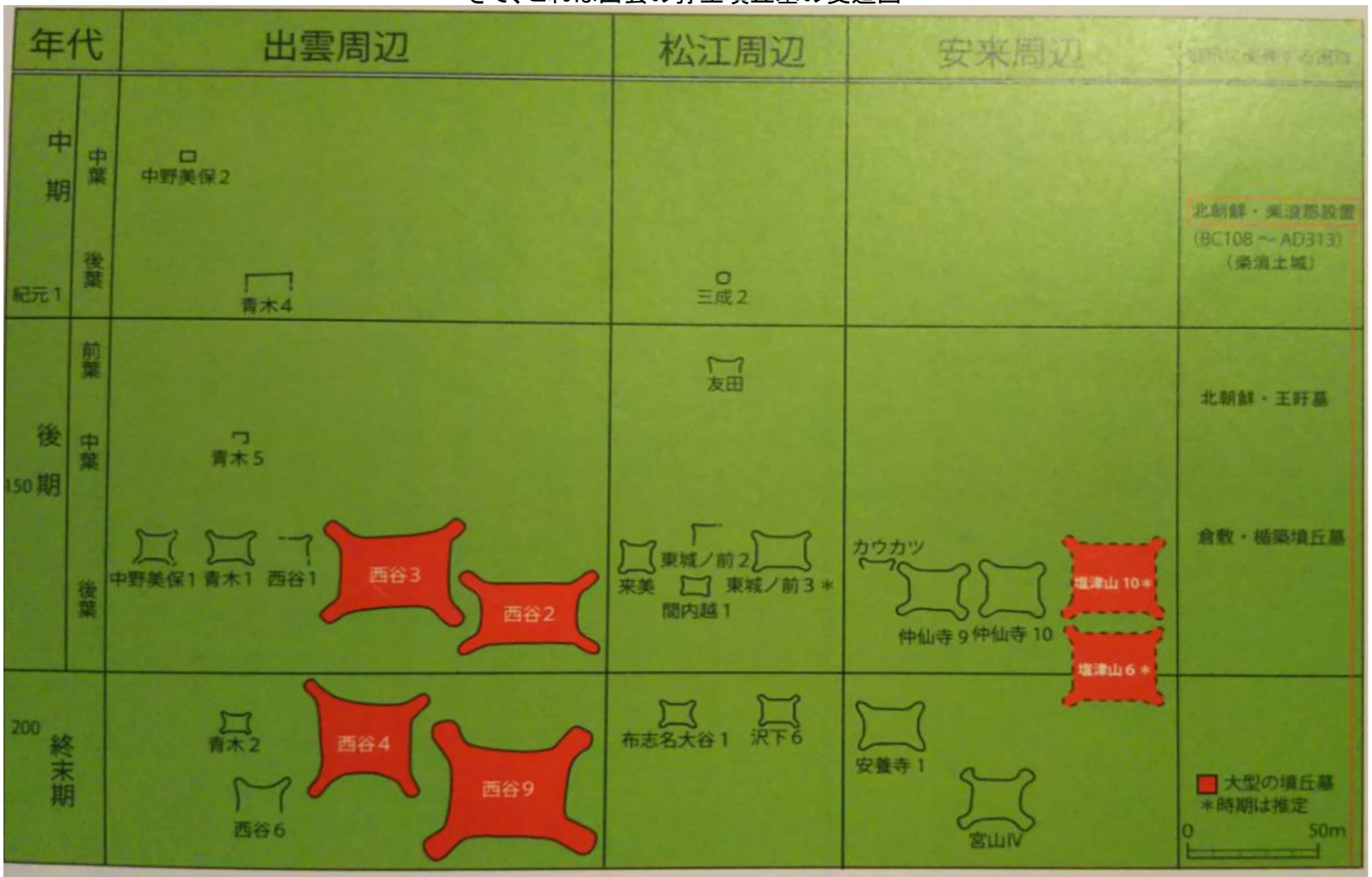


横穴墓の構造

発見当時の横穴墓群

平成22（2010）年3月　出雲市・出雲市教育委員会

さて、これは出雲の弥生墳丘墓の変遷図

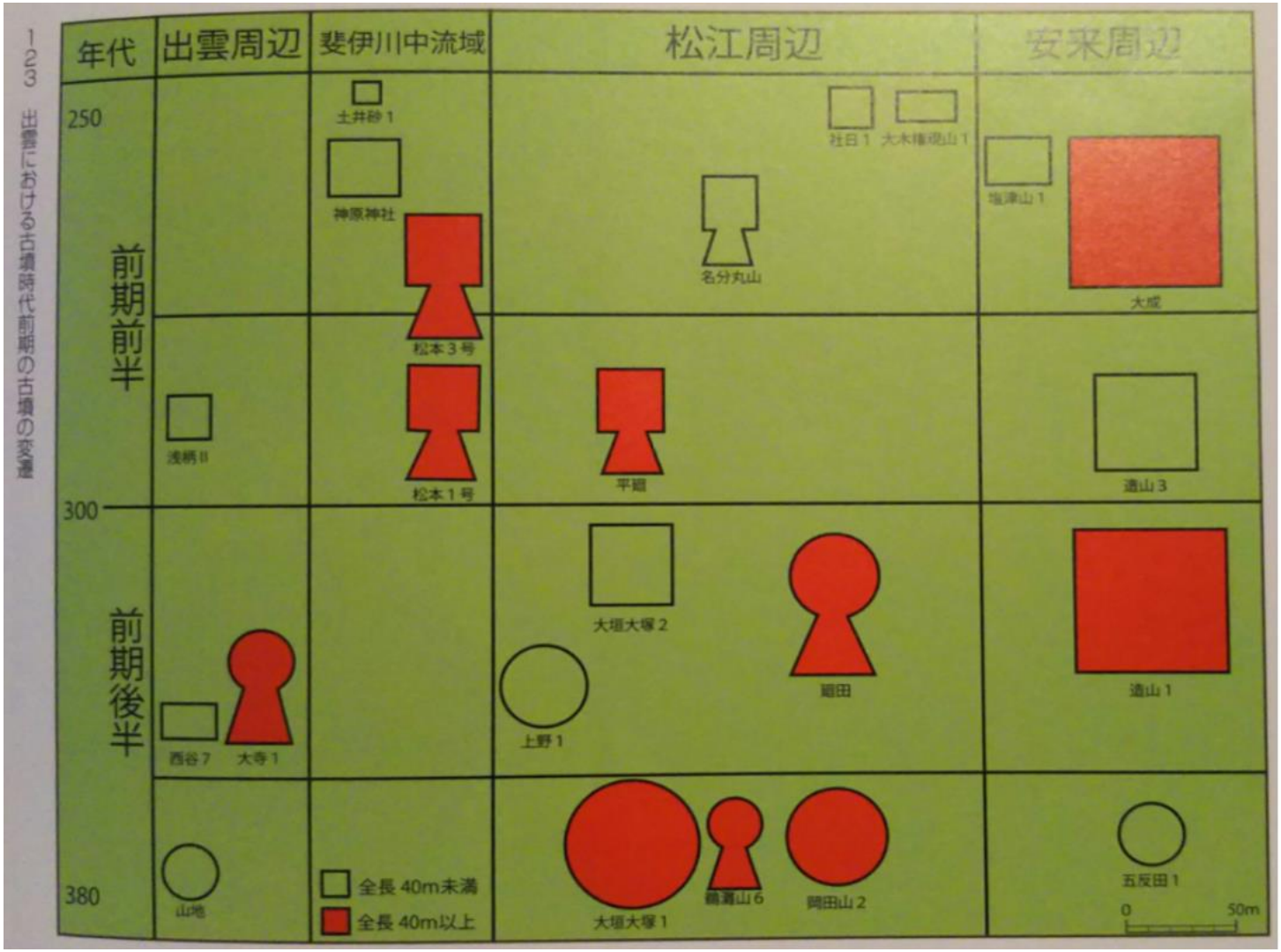


1　出雲の弥生墳丘墓の変遷

そしてこれは四隅突出型墳丘墓の分布を示したもの/出雲周辺の西谷墳丘墓から、日本海沿岸のルートにのって富山県付近まで伝播していることが見て取れる/これは古代出雲文化圏とでもいうべきものが存在していたことを物語るようだ

四隅突出型墳丘墓の分布

だが、弥生時代から古墳時代に入る頃になると、この出雲周辺からも四隅突出型墳丘墓は築造されなくなっていく/出雲王（出雲周辺に大きな力を持った首長）の末裔はどこへ行ったのであろうか/そしてその頃（3世紀半ば）、畿内では大型の前方後円墳である箸墓古墳が築かれる/古墳時代の始まりである/そして出雲周辺では小規模な方墳や円墳といった古墳が築造されはじめる/これは何を意味するのであろうか/考古学的にも出雲の国譲り神話と符合してくるようだ



参考ホームページ

https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/207093

http://www.fuwaiin.com/jyoumon-iseki/simaneken/21.nisitani-funbo-oubo/oubo.html

http://ktmrj15.webcrow.jp/p32sm/tpx0906simane2.htm

https://blog.goo.ne.jp/hajime-law/e/8cadffc020e7a0a0b1346c9322164f55

https://4travel.jp/travelogue/11438706

http://kaifuusoo-575.sakura.ne.jp/izumo-5-nisidanikofungun.html

宍道湖
431
一畑電車北松江線
9
山陰本線
一畑電車大社線
E9
431
出雲市
9
54
木次線
E9
9
184
雲南市
山陰本線